図IV.3-1 留萌地域の歴史と植物相及び動物相の変化の概要

留萌地域陸域生態調査報告書、1979年11月

年代	1603 1865 1870 1875 1880 1885 1890 1895 1900 1905 1910 1915 1920 1925 1930 1935 1940 1945 1950 1955 1960 1965 1970 1975	備考
歴史	(江戸以前) (江戸) (明治) (大正) (昭和) 1779 1868 '69 '73 '77 '80 '97 1900 '08 '10 '14 '19 '21 '32 '33 '52 '54 不和からの移住がさかんになる 留萌が松前藩の直轄となる 明治維新 天塩国となり、留萌郡となる 留萌村に天塩国毛都の役所できる 留萌支庁できる 留萌村・増毛村できる 増子支庁できる 増子が町になる 留萌が町になる 深川－留萌に鉄道開通 増毛から留萌に支庁移動 小平蘂村できる 留萌－増毛に鉄道開通 留萌－羽幌に鉄道開通 留萌港完成 第一次世界大戦 ニシンとれなくなる ニシン、昆布の大漁 畑地の水田化 稲作転換始まる 米生産調整	資料： 留萌市史 増毛町史 小平町史
社会環境変化の特徴的指標 人口	40,000人 30,000 20,000 10,000 0	資料： 国勢調査 留萌現勢昭53年 小平町史 増毛町史
漁業	6万t 4 2 0 ニシン漁獲量（1887～1902年は鬼鹿を含む） 総漁獲量？	資料：1889～1955年、1962～1967は留萌市史 1972～1976年は留萌の姿（1978）
農業	ha 3,000 2,000 1,000 0 畑作（麦・豆・馬鈴薯） 稲作 （注） 耕地面積	注：1915年耕地面積6,000haこの時以前は小平蘂を含む
林業	川の流域を中心に用材・薪材の伐採。 漁民の移住に伴う用材の大量伐採。 明治中ごろまでに海岸のほとんどの良材は伐採された。 カラマツ・カエデ・カエデ・カンバ・ツツジ等大量に伐採。 戦争の間、乱伐され、補助造林も行われず。 パルプ用材急増 国有林の機械化、合理化、人工造林と伐採方式の変化による皆伐 植林地（調査地域）24%	資料：留萌市史 本調査結果
鉱工業	万t 5 出炭中 大和田炭礦 開山 産出高 藤山炭礦 開山 登山炭礦 開山 閉山 5万t 出炭量 産炭地域振興指定地域 工業開発地区指定	資料：留萌市史 目で見る北海道 産業昭53年
植物相	(原植生図 1/20万 本調査結果から) 小平蘂川の河岸には、オニグルミ、ハルニレ、ヤチダモ、ハンノキの大木。台地にはニレ、ナラ、ヤチダモ、キハダ、イチヤ、ホオノキ等。巨木はまれ。 川の沿岸には肥沃な土地が多く、うっ蒼とした自然林が密生し、奥地へ入るのが困難であった。 林相しだいに荒廃 戦争の間乱伐され、補助造林もなく、山林荒廃 植林によると単相林区域が拡大された。 留萌市千望台、留萌神社、幌加神社に森林保護地区設定 (現存植生図 1/5万 1977～8年調査)	資料：留萌市史 本調査結果
動物相	林内のクマ、キツネが多く、奥地に行くのは困難 留萌の人家付近にもクマが出没、近くの山には非常に多数生息 キツネが人家付近に多数出没 鳥類・昆虫類の記録なし 留萌川にヤマメ、マス、ヤツメ・ウグイが多く生息、開拓農民のタンパク源となった 留萌市藤山・峠下、小平町本郷に鳥獣保護区設定 (3鳥獣保護区 1977～8年調査 哺乳類 11種 鳥類 61種 昆虫類332種)	資料：留萌市史 大和昭和13年 （文献38） 本調査結果
	カワウソ 1906年の捕獲状態（文献38） → 1920年の捕獲状態（文献38） → 絶滅	
	ヒグマ 1906年の捕獲状態（文献38） → 1920年の捕獲状態（文献38） → 1972～76年の捕獲状態（調査地域周辺） 小平 留萌 増毛	